

# ニッコウキスゲの咲く高原を走る 霧ヶ峰花祭りオリエンテーリング大会

木村佳司

霧に覆われた草原。ニッコウキスゲの黄色い花が咲き誇る。ウッドチップが敷き詰められたトレイル。天上界があるとしたらこんな所なのだろう。

霧ヶ峰花祭りオリエンテーリング大会  
2003年7月13日



高山植物「ニッコウキスゲ」  
霧ヶ峰一帯に群落がある。とてもきれい。

## 標高1640mの会場

梅雨の間隙の霧ヶ峰高原は爽やかな朝を迎えていた。草原の緑と霧が柔らかく溶け合って、緩やかな曲線を描いていた。草原には、ぼつりぼつりと黄色が鮮やかに浮かび上がる。それは霧ヶ峰高原が短い夏に一瞬だけ見せる美しさ。

会場ではオリエンテーリング参加者の他にウォーキング参加者、フリーマーケット参加者の姿。それぞれの夏を求めて霧ヶ峰高原を訪れていた。



初心者説明。  
背景の草原がなんとも爽やかな感じ。



説明を聞く参加者。  
人数では同時開催のウォーキング大会に圧倒されてしまうが、それぞれに楽しむ。

## タイムカプセル

この大会は1970年代のオリエンテーリング大会のスタイルをそのまま受け継いでいる。

受付を行うと、まず白地図が渡される。もちろん通行可能度など入っていない。面状特徴物は建物以外は記載されていない。モノクロコピーの地図である。

参加者にはコンパスとボールペンが渡される。E-cardなどは無い。地図に刷りこまれたコントロールカードに番号を記入してくるのだ。

スタートと同時にマスターマップを写し、競技を開始する。マスターマップを写す時間も競技時間に含まれる。

競技に使用されるコントロールは基本的には常設のもの。パーマメントコースで使用しているものだ。

このスタイルは1970年代に日本にオリエンテーリングが導入されたころ広く行われたもの。その後運営スタイルは徐々に変化していった。それは大量の参加者をさばいたり、その後増加した個人参加者の激しい競技スタイルに対応したものである。

しかしながら、この霧ヶ峰大会ではそうした流れとは無縁に1970年代スタイルをタイムカプセルのように守っている。オリエンテーリング競技者が減少している今、1990年代のマスプロダクショナルな大会運営も破綻をきたしている。そんな中、1970年代運営のように特殊技術を使わない大会運営の良さが、この霧ヶ峰大会にはあるように思う。



リニューアルされたパーマのフラッグ  
文字がカタカナなのは小学生に対する配慮からだろう。青いフラッグというのは初めて見た。

## 走るだけで楽しい場所

基本的に霧ヶ峰高原はどこでも自由に走れるわけではない。高山植物の保護区がかなり広い面積を占めるからだ。歩ける・走れる場所は主として道や小径に限定される。そんな特殊事情もあって、直進を主体としたコースは組めないし、直進を想定した地図も必要無い。

しかし、霧ヶ峰は走るだけで楽しい。気分がいい。なぜだろう。梅雨のうとうしい時期にあって、高原特有のあの清々しい空気のせいだろうか。それとも目に眩しい草原の新緑と、周囲をぐるりと見下ろせる展望のせいだろうか？



ウッドチップが敷き詰められたトレイル。非常に快適に走ったり歩いたりすることができる。



会場付近の最終コントロールは特設コントロールを使用している。ハンコによる通過証明。実に判りやすい。

## 28 回目のイベント

この霧ヶ峰オリエンテーリングイベントは今回で 28 回目を数えるという。日本でオリエンテーリングが華々しく導入されたころ、各地でオリエンテーリングイベントが開催された。しかしその後は参加者数の減少と、運営者側の都合から、その殆どが休止したり、運営形態を変えている。こんな中、この霧ヶ峰の大会は今日まで形を変えずに続いている。これは運営者の皆さんの力によるものだろう。継続は力なり。しかし運営者の中でもマンネリ化を感じている。毎年同じ会場イベントを行ってれば、コースバリエーションも自ずと限られており、リピータも減少してきているという話である。

昔は 100 名をはるかに越える参加者で賑わったが、今回の大会は参加者 20 名程度のイベントだった。「昔に比べると寂しい感じですが、でもこうして楽しみにしてくれる人が一人でもいればそれでいいじゃないかというつもりで運営しています。」運営者の一人は私にそう語った。

## 来年は霧ヶ峰高原ロケイン？

霧ヶ峰高原のロケーションは素晴らしい。この草原のトレイルを走れたらどんなにキモチがいいだろう・・・。

実はトレーニングと称してこの霧ヶ峰を拠点に国土地理院の地図に仮想コントロールを描き、あたり一帯を走ったことがある。もう 4 年前のことだ。この時の楽しかった思いでは今も忘れない。10 名程度で行ったこのシークレット企画を、一般参加者に向けて開放する時がきたのかもしれない。

「あの一、もし良かったら、来年の大会ではもう一つクラスを追加させていただけないでしょうか？」  
「あらー、そりゃありがたい。」  
「今までの霧ヶ峰大会のお邪魔はしません。新たにロケインコースを追加して、こちらは私達数名で運営してみます。ロケーションは素晴らしいので、宣伝の仕方によってはそこそこの人数が集まると思っています。」  
「5 名でも 10 名でも参加いただければやりましょう。」

構想としては、こうだ。

午前 9:00 霧ヶ峰高原、強清水バス停前イベント広場をスタート。制限時間 2-3 時間のミニロケイン。天候により時間圧縮。使用地図は国土地理院 1:25,000 に修正をいれたもの。コントロールの設置場所や競技地域は、国定公園内部なのでかなり制約がある。直進は基本的に不可。ほとんどが自然保護区となっているからである。基本的にはトレイルランニングとなる。夏山シーズンなのでトレイルには人は多いだろうが、そこは競技者自身で登山マナーの中で参加いただく。周囲には山小屋やドライブインが多いので給水所は設置しない。競技そのものより、ニッコウキスゲの咲く 1800m の高原を楽しんで走っていただくことを主眼とする。参加費は花祭り大会より高めに設定するが、会場横の温泉が使用できて、着替えができるなどのサービスに配慮する。

このイベントとて、到底毎年のリピーターに耐えられるものではないだろうが、まずは何かやってみようと思案中に企んでいる。



草原内に設置されているパーマナントフラッグ。風雪に耐えてボロボロになっているが、まだまだ健全。

## 各地の会報から

### 愛媛県オリエンテーリング協会

6 月 8 日に全国一斉大会愛媛県会場が開催されました。松山市西野町の「えひめこどもの城」です。今年は 52 組 161 名の参加がありました。内容は「組集め OL」というゲーム性を重視したものの。暑さを忘れて参加者は楽しんでいました。

また、5 月 18 日には今治市立花剣道会の家族 80 名を対象に地元でオリエンテーリングを開催しました。

さらに 6 月 22 日には某社の社員旅行で 70 名がオリエンテーリングが行われました。

### OL いしかわ

#### ふれあいオリエンテーリング大会

5 月 25 日に金沢市の奥卯辰山森林公園で開催されました。参加人数は 136 名。縮尺 1:5,000 の地図を手にピンゴ O を楽しみました。

### 金沢市民体育大会

6 月 28 日(土)は市総合体育館で開会式が行われ、41 競技、1000 名が参加しました。オリエンテーリング選手も 20 名が参加、入場行進を行いました。競技は翌 6 月 29 日に金沢市内のキゴ山で行われ、96 名の参加がありました。霧雨の天気だったせいもあり、難しいコースになったようです。

### 小松市民体育大会

7 月 6 日に小松市憩いの森公園で開催されました。参加者も多めだったのですが、小雨に煙るトレインは金沢大学の新 1 年生には厳しかったようです。

### OL 北九州

#### 筑後地区大会

久留米のトレインで開催されたこの大会で、参加者が人骨を発見してしまったようです。警察による調査の結果、その遺体は 8 ヶ月前より失踪していた近くの養護学校の生徒だと判明。さらに警察では捜査を続けるそうです。